

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

“自存”と“統合”のあいだで カンボジア資本主義の近現代史

本報告は、1860年代初頭に始まるフランス保護領期以来のカンボジアの資本主義に注目し、長年の政府の取り組みを明らかにするものである。

主な提題は二つである。一つは、過去150年間の資本主義システムの発展の中で、土地収用が重要な役割を果たしてきたという点である。もう一つは、これらの土地収用が、一定の経済自立政策を推進した支配層の思惑と関連していたという点である。彼らはカンボジア国外との経済的・政治的なつながりからも利益を得ようとしていた。こうした“自存”と“統合”のあいだに生まれる緊張関係が、カンボジア独特の政治経済状況をつくり出してきたのである。

※報告は英語で行われます。



◆日時: 2014年2月6日(木) 17:00-18:00

◆報告者: アンドリュー・コック氏(日本学術振興会 外国人特別研究員)

◆会場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

◆参加費: 無料(申し込みは不要です)

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索



東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

